

臨床研究に関する情報公開

<人を対象とする医学系研究に関する倫理指針>に基づき、研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書および関連資料を閲覧することができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。その場合でも、患者さんに不利益が生じることはありません。

<p><研究課題名> 眼内レンズ強膜内固定術後の屈折誤差の調査研究</p>
<p><研究機関・研究責任者名> 日本大学医学部附属板橋病院 眼科 (研究責任者)朝生 浩</p>
<p><研究期間> 承認日 ~ 西暦 2022年 3月 31日</p>
<p><研究の目的と意義> 水晶体再建術は水晶体を新たな人工レンズに置換する手術であり、眼鏡やコンタクトレンズと同様に、レンズには度数が細かく設定されています。どの度数のレンズを挿入するかは患者さんの術後の見え方（どこの距離にピントを合わせるか）の希望に沿って決定されます。レンズの度数は患者さんの角膜曲率や眼軸長、前房深度などを機械的に計測し算出された予想屈折値を参考に決定されます。その計測値は個々によって様々であり、術前の予想屈折値と術後の実際の屈折値がずれることもあります。「ずれ」が生じてしまうと、患者さんの期待する見え方に相違が生じ、手術満足度の低下になります。本研究では強膜内固定術の術前・術後の屈折誤差を多角的に検証・評価し、通常の白内障手術で行う嚢内固定術と比較して、術後屈折誤差の劣らぬ手術を実現させるべく調査します。</p>
<p><利用する試料・情報の項目> 診療記録から術前術後の眼球測定データを用います。</p>
<p><対象となる患者さん> 西暦 2017年 4月 1日~西暦 2021年 12月 31日の期間に当院眼科で強膜内固定術・嚢内固定術を行った患者さん</p>
<p><研究の方法> 上記の定める研究期間内で当院眼科で強膜内固定術・嚢内固定術を施行した患者で、術後に当院眼科外来を最低でも1ヶ月通院し、適切な検査が可能であった方で下記項目の情報を集積して検討します。</p> <p>① 年齢、性別、診断名、手術眼 ② 眼軸長、角膜屈折力、術前角膜乱視、術後自覚屈折度数、術後等価球面值、屈折誤差 ③ レンズ製品名、レンズ度数</p>
<p><お問い合わせ窓口> 日本大学医学部附属板橋病院(東京都板橋区大谷口上町 30-1) 眼科 氏名:朝生 浩 電話:03-3972-8111 内線:(医局)2531</p>